



特集 助け合い 支え合いのある 地域づくり

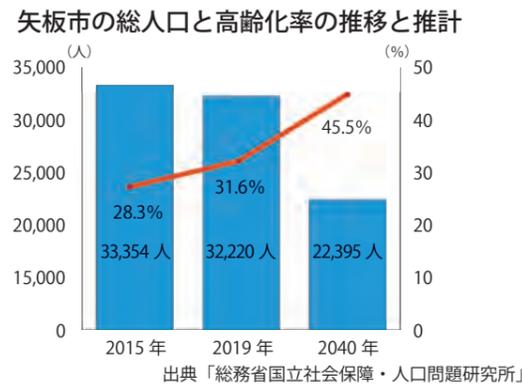
少子高齢化の進行により、2050年には1人の若者が1人の高齢者を支える「肩車型社会」に突入するとも言われています。もちろん私たちが住んでいる矢板市もそのような状況から逃れることはできません。また、単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症などで支援を必要とする高齢者が増加する中、生活支援の必要性も増しています。

現在、全国の市町村では「高齢者になっても暮らしやすいまち」を目指して、住民が主体となり、高齢者の社会参加の促進、地域における助け合い・支え合いの体制をつくるために「生活支援体制整備事業」が始まっています。

今号では、なぜ今、地域のあり方を変える必要があるのか、どのようにして新たな仕組みを作っていくのかをお伝えするとともに、実際に行われている活動の様子などについてご紹介します。

住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていくために、今できることから始めていきましょう。

広げよう！ おたがいさま ～地域での支え合い体制 づくりを始めましょう～



全国的に少子高齢化が急速に進んでおり、矢板市も例外ではありません。2019年現在、65歳以上の高齢者の占める割合が全人口の31.6%、2040年には45.5%になると推計されており、約2人に1人が高齢者となる時代がやってきます。

要支援・要介護認定者も年々増加しており、デイサービス、介護ヘルパーなどの介護サービスを利用する方も増えています。

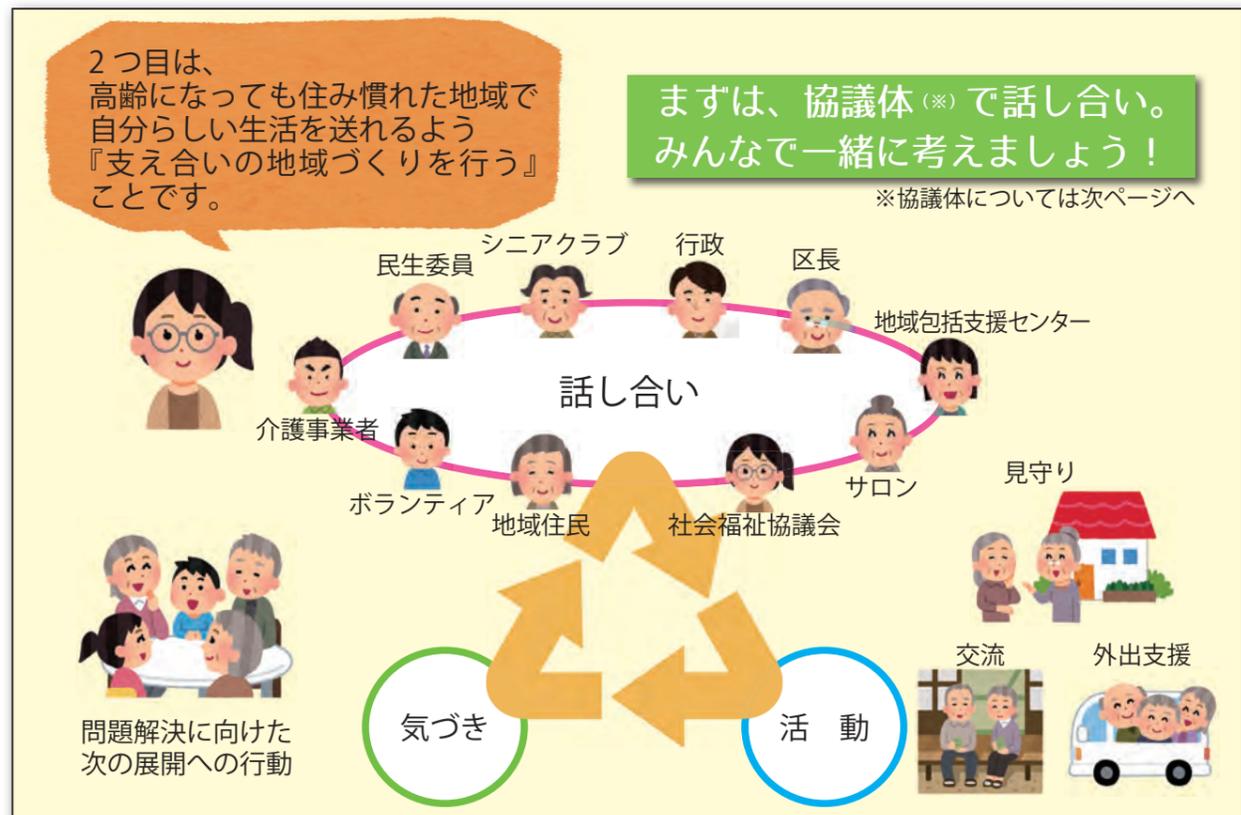
介護保険の利用者が増えると国の財政を圧迫し、増税や介護保険料の増額が避けられない状況となります。今後は、ますます1人ひとりの負担が大きくなっていきます。また、労働人口も減り続けていくため、介護職の人材確保も難しくなります。

既存のサービスだけでは対応できなくなることを見据えて、私たちが今できることを考え、実践していかなければならない時代となりました。



1つ目は、自分自身が介護のお世話にならないよう、介護予防に努めることです。つまり『健康寿命の延伸』です。

いつまでも健康で暮らすためには、自分自身で介護予防に努めることが大切です。高齢になっても地域で役割を持ち、社会に参加し、人づきあいをする事は、自身の健康維持や生きがいづくりにもつながります。また、外に出て地域の中で過ごすことは、「閉じこもり」や「孤立防止」にもなり、自然な見守りにもつながります。



住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるために「どんな活動が必要か？」を話し合いながら「助け合い・支え合いの地域づくり」を行っていくことが必要とされています。

今までは、行政が主導して行ってきた地域福祉の仕組みから、住民が主体となって作り出す新しい仕組みへ大きく形を変えようと、地域における支え合い活動を「地域の視点(住民を中心とした多様な主体)で広げてみよう!」という取り組みが全国各地で始まっています。

◆ 協議体設置に向けた取り組み

現在、市では高齢になっても暮らしやすい地域について自分たちで考え、「互助」の力を高める仕組みづくりである、生活支援体制整備事業に取り組んでおり、「協議体」の設置に向けて準備を行っています。

市全体を包括的に考える第1層協議体を設置し、現在、中学校区を単位とする3つの第2層協議体の設置に向け、月1回程度準備会を開いています。これから設置される協議体では、地域の情報を集め、共有していくことを主に、自分たちの地域活動へとつなげていきます。また、分からないことや気になること、知識として知っておきたいことなどは、専門知識を持った方にも参加を呼びかけ勉強会などを行っています。

= 協議体 =

地域に住む個人・団体などがメンバーとなり、今やっていることや、無理なくできることなどをみんなまで話し合う場所です。ここでは地域の「ちょっといい話」「困ったこと」「地域で行われている活動」など、地域のことであれば何でも自由に話し合い、情報を共有します。話し合いの中で、活動同士のつながり、見守り活動、趣味や体操による居場所づくりなど、その地域ならではの支え合いの仕組みづくりをできる範囲で考えていきます。

= 生活支援コーディネーター（SC） =

協議体と協力しながら、自分たちの地域をよりよくしていくために、支え合い活動をつなげ、組み合わせる調整役です。



講演会・ワークショップなどを行い「地域づくり」について考えを深めています。

地域包括ケア講演会

生活支援体制整備事業を地域の皆さんと一緒に進めるための第1歩として、昨年10月に講演会を行いました。生活支援体制整備アドバイザーの菅野さんは、「これからの社会情勢は劇的に変わっていく。地域力でこの状況を打破していかなくてはならない」と話されていました。



過去に行われた第2層協議体準備会、地域づくり勉強会での取り組みを、社会福祉協議会のホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。



社会福祉協議会
ホームページ

地域の困りごと・課題の分類ワークショップ

地域の課題を出し、地域内の力で解決できるか話し合いました。具体的な活動の仕方、今ある活動をどのようにしていくかなど、積極的に意見を出し合いました。

また、地域活動の代表者を講師として、交通手段の確保や見守りがどのような形で行われているかを各地区ごとに勉強しました。



募集 話し合いの場（第2層協議体準備会）に参加しませんか？

日時／お住まいの地域にご参加ください。

地区	日時	場所
泉	8月23日(金) 14:00～16:00	泉公民館
片岡	8月28日(水) 14:00～16:00	片岡公民館
矢板	8月30日(金) 14:00～16:00	矢板公民館

対象者／地域での助け合い・支え合いに関心のある方など、どなたでも参加できます。

内容／

「助け合う・支え合う」とはどんなことか？将来に向けて自分たちの地域をどのようにしていきたいか？などワイワイガヤガヤ地域のことを話し合い、情報共有します。

申込方法／

前日までに電話でお申し込みください。

問い合わせ／

社会福祉協議会 ☎(44)3000

高齢対策課 ☎(43)3896

社会福祉協議会



生活支援コーディネーター
吉田さん 川畑さん 只木さん

矢板市社会福祉協議会は、市から委託を受け、住民の皆さまや関係機関と一緒に、助け合い・支え合いのある地域づくりに取り組んでいます。

昨年10月の地域包括ケア講演会に始まり、毎月矢板・泉・片岡で集まりを行っています。この取り組み（第2層協議体）は今までにない新しいスタイル・手法であり、私たちも試行錯誤をしながら行っています。

それぞれの地域の実情に応じた高齢者の生活を支える体制を考えていくためには、実際にその地域で生活している皆さんの力が必要です。生活者としての視点、地域の情報を持ち寄り、その地域に足りないものやこんなものがあれば安心して暮らせるというようなことを考え、できそうなことをそれぞれの立場で行っていきます。将来、手助けを必要とする状態は、誰にでも訪れます。自分自身の将来のため、またこうした活動を通して社会参加や役割を持つことは、健康寿命を延ばすことにもつながっていきます。健康で充実した生活を続けていくためにも、助け合い・支え合う、お互いさまの地域づくりを一緒に進めていきましょう！

高齢対策課



沼野課長

生活支援体制整備事業は、助け合い活動の創出・充実に向けて、10年後、20年後、自分たちはどのような地域で暮らしていきたいか「目指す地域像」を見据え、できるだけ多くの人たちが地域に関わっていけるように働きかけをするものです。

この取り組みには、区長さん・民生委員さん・住民の皆さんなど、地域に暮らすさまざまな方たちの協力が必要不可欠です。協議体で行われる話し合いでは、それぞれの地域ですで行われている活動をさらに充実させたり、情報共有により、足りない活動への気づきにつなげていくためのものです。少しでも多くの方にご参加いただき、各地域での活動を、これまで以上に意味のあるものとして役立てていただきたいと思います。

これからも住み慣れたこの矢板市で、いきいきと自分らしく暮らしていけるよう、皆さまの参加・協力をお願いします。

荒井行政区



水沼さん 兼崎区長

自分がどのような支え合いができるのかを知るために、第2層協議体の準備会・勉強会に初回から参加しています。行政区が違って地域内での困りごとや課題には共通点が多いと感じました。それと同時に地域に住む住民同士で解決していくという点では、難しい課題もあると思いました。

社会構造の変化とともに生活が地域依存から職場依存へと変化していきました。若い世代だけでなく、団塊の世代も地域との関わりが希薄になりました。そのような人たちも加えて、地域内で日常的な見守り、声かけ、きらきらサロンなどで定期的な交流をしていかなければならないと思っています。

また、矢板市には既存の組織がたくさんあります。その組織と協働しながら活動をしていくべきだとも思っています。

行政区の広報「あらい」にも助け合い・支え合いのある地域づくりの記事を掲載し、具体的な活動をするときの担い手となってもらえるように、この取り組みを広げていきたいです。